プログラム

【1 日目】11 月 10 日（火）：11 時 30 分頃から受付開始予定 ※特は特別セッション，[ ] は論文番号

時間	第１会場 （ホール A）	第２会場 （ホール B・C）	第３会場 （ホール D）	ポスター セッション （アリーナ）
午前①				
午後①	12：30～12：45 開会式			
午後②	12：55～14：15 災害地質（1）：[1-6] 座長：石濱 茂崇（熊谷組）	12：55～15：35 【特１】DX・生成 AI 時代の土砂災害予測：調査・解析技術の最前線：[18-27] 座長：原口 強（STORY・東北大学災害科学国際研究所）		
午後③	14：30～15：35 土木地質（1）：[7-11] 座長：諸隈 暁俊（アジア航測）			
午後④	15：50～17：10 災害地質（2）：[12-17] 座長：菊地 輝行（公立諏訪東京理科大学）	15：50～17：10 地層処分：[28-33] 座長：吉岡 真弓（産業技術総合研究所）		
午後⑤			17：30～19：30 応用地質学の発展に向けたコラボレーションセミナーとアース・サロン （主催：ダイバーシティ推進委員会）	

【2 日目】11 月 11 日（水）

時間	第１会場 （ホール A）	第２会場 （ホール B・C）	第３会場 （ホール D）	ポスター セッション （アリーナ）
午前①				ポスターセッション ・緊急セッション展示開始 （9：00～）
午前②				9：30～10：30 ポスターセッション ・緊急セッション コアタイム①
午前③				10：40～11：40 ポスターセッション ・緊急セッション コアタイム②
昼休み	12 時 50 分までにポスター賞の投票をお願いいたします.			
午後①	12：50～14：00 特別講演			
午後②	14：15～16：00 土木地質（2）：[34-40] 座長：窪田 安打（応用地質）	14：15～16：10 地形・地質一般：[46-53] 座長：西金 佑一郎（鉄道総合技術研究所）		
午後③	16：25～17：30 土木地質（3）：[41-45] 座長：杉山 直也（J-POWER 設計コンサルタント）	16：25～17：30 地下水：[54-58] 座長：浦越 拓野（鉄道総合技術研究所）		ポスター展示終了（～16：00） ※可能な方は 17 時までにポスターの撤収をお願いします（それ以外の方は本部で回収し翌日お渡しします）

18：00～20：00：意見交換会（会場：長岡グランドホテル）

【3 日目】11 月 12 日（木）

時間	第１会場 （ホール A）	第２会場 （ホール B・C）	第３会場 （ホール D）	ポスター セッション （アリーナ）
午前①	9：30～11：45 土木地質（4）：[59-67] 座長：濵田 好弘 （熊谷組）	9：30～10：25 環境地質：[75-78] 座長：新谷 友彦（大日本ダイヤコンサルタント）		
午前②		10：40～12：00 災害地質（3）：[79-84] 座長：宮本 新平（中電技術コンサルタント）		
昼休み			12：00～13：10 若手交流会（主催：事業企画委員会）	
午後①	13：15～15：00 【特２】自然災害伝承碑の調査研究とアウトリーチ活動の展開：[68-74] 座長：下村 博之 （パスコ）	13：15～15：00 測量・計測：[85-91] 座長：山村 充 （国土防災技術）		
午後②	15：15～15：30 閉会式			

研究発表会プログラム（〇印は講演者）

【口頭発表】

第１日［11 月 10 日（火）］第１会場

災害地質(1)　12:55–14:15

1. 北部九州の結晶片岩地域における地すべり性変動のメカニズム
   〇石垣 璃・山本 茂雄・森田 祥子（中央開発）
2. 令和 6 年能登半島地震に伴う大久保・吉ケ池崩壊の地形・地質的特徴
   〇松澤 真（京都大学防災研究所）・渡壁 卓磨（森林研究・整備機構森林総合研究所）・佐藤 昌人（防災科学技術研究所）
3. 八太郎峠西方で発生した地すべり周辺における空中電磁探査による比抵抗構造
   〇金山 健太郎・坂下 学・篠原 良彰・吉田 亘希・奥村 稔・金丸 諒太朗（大日本ダイヤコンサルタント）・菊地 輝行（公立諏訪東京理科大学）
4. 八太郎峠西方で発生した地すべり周辺における地質構造的特徴
   〇菊地 輝行（公立諏訪東京理科大学）・金山 健太郎・篠原 良彰（大日本ダイヤコンサルタント）
5. 徳島県西部，中央構造線沿いの井の久保・船戸地すべりの年代
   〇植木 岳雪（成蹊大学）
6. テフラ層すべり末端の多様な構造とそのメカニズム
   〇田近 淳（ジオテック）

土木地質(1)　14:30–15:35

7. 白新田断層と未固結堆積物の分布を踏まえた雲仙地域の地質形成史
   〇岸良 直人・島内 健（日本地研）
8. 3D Gaussian Splatting を用いたトンネル切羽における不連続面走向傾斜の抽出・解析と地山評価への展開
   〇石濱 茂崇（熊谷組）
9. 地質・地盤リスクマネジメントの取り組みについて
   〇長谷 海王・赤澤 正彦・外山 真（鉄道・運輸機構）
10. 中止
11. トンネル掘削における比抵抗値の活用
    〇外山 真・赤澤 正彦（鉄道・運輸機構）

災害地質(2)　15:50–17:10

12. 高田流紋岩類斜面における土層構造と深度方向の透水性変化に関する検討
    〇橋本 将弥（山口大学）・太田 岳洋（山口大学）
13. 令和 6 年能登半島地震により発生した国道 249 号中屋トンネルの変状と原因検討
    〇長谷川 大輔・遠藤 雄治・酒井 順（キタック）・田中 義太郎・花田 蘭雄（北陸地方整備局能登復興事務所）
14. 陸上プレート境界断層帯の地形形成と深層崩壊要因
    〇山崎 新太郎（京都大学防災研究所）
15. 中止
16. 六甲山山頂の雨量と地下水位変動ー集水井の効果検証ー
    〇山口 奨之（大日本ダイヤコンサルタント）・橋本 志信・山田 剛・林 一郎（兵庫県神戸県民センター六甲治山事務所）・鏡原 聖史・岡崎 敬祐・伊東 陽希・池田 智弘（大日本ダイヤコンサルタント）
17. 融雪換算降水量モデルの開発と応用
    〇濱崎 英作（アドバンテクノロジー）・大村 泰（奥山ボーリング）・池田 浩二（東北開発コンサルタント）

第１日［11 月 10 日（火）］第２会場

特別セッション１「DX・生成 AI 時代の土砂災害予測：調査・解析技術の最前線」　12:55–15:35

18. デジタルツインと AI が変える土砂災害予測
    〇原口 強（東北大学災害科学国際研究所・STORY）
19. 災害発生直後の状況把握のためのオープンデータ活用と現場連携
    〇鈴木 雄介・原口 強（STORY）
20. 令和 6 年能登半島地震・奥能登豪雨災害被災地におけるオフグリッド型ドローンポートを活用した遠隔斜面自動監視の試み
    〇村松 樹・宮本 冬馬・佐島 裕也・岩滝 明子・大塚 智久（八千代エンジニヤリング）・奥村 英樹（SORABOT）
21. 平成 28 年熊本地震後の各種センサーを用いた土砂災害監視・警報システムの運用事例と課題
    〇梅﨑 基考（アバンス）・坂田 穣・枇杷 雄介（スペースエンジニアリング）・佐藤 朗・加藤 隆之（ジオテクサービス）
22. 画像解析と携帯端末を用いたボーリングコアの破砕度判定手法の検討
    〇古木 宏和・岩間 倫秀・中村 朋暉（日本工営）
23. エコーチップ反発値と X 線強度による地すべりブロックの岩盤性状の定量評価手法
    〇松村 篤・小井戸 一浩・大園 宣明（復建調査設計）

24. 点群地形データを利用した地質条件と流出土砂量に関する事例的研究
〇木下 三郎（日航コンサルタント）
25. 高精度 DEM を用いた地形の解像度スペクトル解析に基づく分類
〇千葉 達朗（アジア航測）
26. L バンド干渉 SAR 時系列解析の斜面対策への活用可能性
〇宇佐見 星弥（北海道立総合研究機構）・佐藤 昌人（防災科学技術研究所）
27. ビッグデータを用いたリアルタイム土砂災害リスク評価
〇竹林 洋史（京都大学）・五十嵐 孝浩（パシフィックコンサルタンツ）・浜田 裕貴（ラピュール）・飛岡 啓之・平川 了治・上村 雄介（パシフィックコンサルタンツ）・桑原 正人（京都大学）

地層処分　15:50-17:10

28. ボアホールジャッキ試験による岩盤の力学評価及び地質解析による EDZ 評価
〇相澤 穂高（川崎地質）・大野 宏和（日本原子力研究開発機構）・川久保 昌平（安藤ハザマ）・加藤 猛士（川崎地質）
29. 地層処分事業におけるサイト調査を支える情報基盤の整備
〇西尾 光（原子力発電環境整備機構）
30. コア・ボーリング孔を用いたサイト選定に向けた地質環境調査に関わる実証試験
〇濱田 崇臣（電力中央研究所）・國丸 貴紀（原子力発電環境整備機構）・長谷川 琢磨・富岡 祐一・佐藤 稔・平野 伸一・幡谷 竜太（電力中央研究所）
31. セメント混合コンクリーション化材における止水効果の時間変化
〇石橋 正祐紀・升元 一彦（鹿島建設）・吉田 英一・山本 鋼志（名古屋大学）・松本 晃治（積水化学工業）
32. コンクリーション化剤による亀裂・透水層シーリング実証試験結果と解析（その１）
〇吉田 英一・山本 鋼志・淺原 良浩・刈茅 孝一（名古屋大学）・望月 陽人（日本原子力研究開発機構）・竹内 真司（日本大学）・松本 晃治（積水化学工業）・久住 隆夫・渡邊 健介（中部電力）
33. コンクリーション化剤による亀裂・透水層シーリング実証試験結果と解析（その２）
〇竹内 真司・中山 紫月（日本大学）・吉田 英一・淺原 良浩・山本 鋼志（名古屋大学）・松本 晃治（積水化学工業）・久住 隆夫・今井 哲久（中部電力）

第２日［11 月 11 日（水）］第１会場

土木地質(2)　14:15-16:00

34. スペクトルカメラ・データを用いた客観的データに基づく岩盤評価の試行
〇樋口 絢渉・窪島 光志・榊原 信夫（川崎地質）・小林 弘明・野中 隼人・升元 一彦・戸邉 勇人（鹿島建設）
35. 複数の熱水変質タイプを有する岩盤ボーリングコアに対するハイパースペクトルデータを用いた AI 画像解析事例
〇福岡 航治・中井 康生（地圏総合コンサルタント）・杉本 大志・万木 純一郎（建設技術研究所）
36. 近赤外線画像を用いた掘削面における膨潤性粘土鉱物の評価―ベントナイト層への適用―
〇奥澤 康一・束元 大介・板垣 昭（大林組）
37. 画像解析の併用による斜面掘削時の面的変位検討
〇濵田 好弘（熊谷組）・佐藤 匠（国際航業）
38. 3D 地盤モデルを用いた地質構造の可視化
渡邊 剛・目黒 喜之・石山 慧（国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所）・〇高澤 忠司・上松 昌勝・目黒 恒平（興和）
39. X 線 CT と深層学習を用いた乾湿繰り返し時の岩石内部における割れ目進展量の評価
〇原田 浩伸・久河 竜也・河村 祥一・日比野 絢斗・赤坂 友幸・浦越 拓野（鉄道総合技術研究所）
40. DAS による鉄道沿線での落石検知に向けた検討
〇浦越 拓野・河村 祥一・原田 浩伸・山花 弘明・片上 智史（鉄道総合技術研究所）

土木地質(3)　16:25-17:30

41. 地質条件の精査による擁壁補強案から撤去・植生法面への対策変更事例
〇寺山 怜・屋木 健司（アジア航測）
42. 鋼管ソイルセメント杭の施工における地質・地盤リスク把握のための取組
〇赤澤 正彦・川中島 寛幸（鉄道・運輸機構）
43. 軟弱地盤上の道路盛土計画において注意すべき地形条件の把握
〇川原 知也・矢島 良紀（土木研究所）
44. 中止
45. 中止

第２日［11 月 11 日（水）］第２会場

地形・地質一般　14:15-16:15

46. ハイパースペクトルカメラを用いた植物を含む地層の識別に関する研究
〇須原 佑介・寶谷 周（安藤ハザマ）
47. 淀み水堆積物の探索と編年：木曽川上流部の事例
〇小松 哲也・内田 真緒・小林 智晴（日本原子力研究開発機構）
48.「水の浸み込みやすさマップ」が示す“土地の意思”
〇長谷川 怜思（八千代エンジニヤリング）
49. 七北田ダム大倉ダム周辺の重力変形斜面の地形地質特性
〇高見 智之（国際航業）
50. 花崗岩分布域での砂防堰堤設計のための地質調査・解析
〇松永 京子・椎野 実優・漆山 凌・江村 剛（村尾技建）
51. 花崗岩の地形勾配と透水係数の相関
〇木村 隆行（エイト日本技術開発）
52. 花崗岩の柱状節理帯の分布とその産状
〇加藤 弘徳（荒谷建設コンサルタント）・千木良 雅弘（深田地質研究所）
53. 鹿児島県高隅山花崗岩体の節理構造
〇千木良 雅弘・金子 誠（深田地質研究所）・加藤 弘徳（荒谷建設コンサルタント）

地下水　16:25-17:30

54. 地下石油備蓄基地における地下水位観測孔の水位低下予測
〇笠水上 太祐・大野 圭佑・山下 貢（日本地下石油備蓄）・末永 弘（電力中央研究所）
55. MR-AR 法および状態空間モデルによる地下水位時系列の成分分離手法に関する検討
〇澁谷 奨（地圏総合コンサルタント）・斎藤 庸
56. 阿武火山群伊良尾山の湧水形成要因の検討
〇小井戸 一浩（復建調査設計・山口大学）・太田 岳洋（山口大学）
57. トンネル湧水の化学組成から読み解く断層分布および断層性状の評価：PHREEQC を用いた水-岩石相互作用の熱力学解析
〇山下 慧・升元 一彦・松下 智昭・石橋 正祐紀（鹿島建設）・太田 岳洋（山口大学）・若林 功起（JRTT）
58. 熱力学解析による火山山麓湧水の水質形成モデルー羊蹄山の例ー
〇太田 岳洋（山口大学）

第３日［11 月 12 日（木）］第１会場

土木地質(4)　9:30-11:45

59. 宇宙線ミューオンイメージングによる地下空洞探査技術の開発
〇森島 邦博・正野 天尋・北川 暢子（名古屋大学）
60. 岩盤斜面中の割れ目の熱変形による開閉挙動に関する考察
〇久河 竜也・浦越 拓野（鉄道総合技術研究所）
61. オーバーハング形状斜面背部の塑性ひずみ分布の評価に向けた三次元 FEM 解析モデル化の検討事例
〇岡﨑 健治・丸藤 大樹・川又 基人・日外 勝仁（寒地土木研究所）
62. 中止
63. グラウンドアンカー付き法枠工の法面における健全度調査と地盤解析
〇村上 みなみ・窪田 安打・杉本 有希洋（応用地質）・増田 竹弘・千郷 直斗・中尾 隼人（神戸市建設局北建設事務所）
64. 貯水池周辺斜面における岩盤透水特性と浸透流解析の適用性
〇須藤 大智・矢島 良紀（土木研究所）
65. 火砕物の粒度と透水性の関係と透水係数推定手法の検討
〇向井 和行・大山 朝之（レアックス）
66. 第四紀火山性堆積岩におけるグラウチングテスト事例ー砂礫質低固結軟岩の改良特性ー
〇畚野 匡・川崎 槙平・曾根 明樹・細野 貴裕（日本工営）・上原 祐治・青木 純也（応用地質）
67. ダム基礎の岩盤透水性を考慮した高圧，高濃度のグラウチング注入工法の適用性評価
〇清水 公二（ニュージェック）・吉津 洋一（ハイドロ総合技研）・駒井 藍・橋本 雄介（ニュージェック）

特別セッション２「自然災害伝承碑の調査研究とアウトリーチ活動の展開」　13:15-15:00

68. 国土地理院による自然災害伝承碑の取組
〇田中 大和（国土地理院）
69. 日本石材産業協会と自然災害伝承碑の関わり方について
〇齋藤 繁樹（日本石材産業協会）
70. 自然災害伝承碑の学会の R8 年度アウトリーチ活動
〇千田 敬二（八州）・下村 博之（パスコ）・西村 智博（国際航業）・金山 健太郎（大日本ダイヤコンサルタント）
71. 新潟県中越地方で発生した自然災害と自然災害伝承碑
〇堀松 崇（興和）・佐藤 壽則（日さく）

72. 鳥取県の自然災害伝承碑
〇西山 賢一（徳島大学）・加藤 弘徳（荒谷建設コンサルタント）・田村 栄治（ナイバ）・浜崎 晃・大坂 理（日本海技術コンサルタンツ）・木村 一成（ケイジオ）・濱本 拓志（大日本ダイヤコンサルタント）・向吉 秀樹（島根大学）
73. 関西支部における活動報告ー調査とアウトリーチー
〇北田 奈緒子（ＧＲＩ財団）・塚本 峻一（アジア航測）
74. 震災と石碑～北丹後地震から 100 年～
〇今井 利宗（川崎地質）・金折 裕司（元山口大学）

第３日［11 月 12 日（木）］第２会場

環境地質　9:30-10:25

75. 堆積環境に基づく建設発生土の酸性水発生源評価
〇三浦 伊織・昆 周作・矢島 良紀（土木研究所）
76. 琵琶湖深部湖底から出る湧水・ガスの生成機構と湖底環境への影響
〇小泉 尚嗣（滋賀県立大学）・谷口 和真（クリタス）・高野 美優・大谷 秀音（滋賀県立大学）・山野 誠（東京大学）・角皆 潤（名古屋大学大学院）・笠谷 貴史（海洋研究開発機構）・後藤 慎平（東京海洋大学）・後藤 直成（滋賀県立大学）
77. 最終処分場の遮水性についての調査における電気探査の解釈
〇山本 優介（地層科学研究所）・大野 博之（地質工学社）・細野 賢一（地層科学研究所）
78. 最終処分場の機能維持のための構造物の安定性について
〇大野 博之（地質工学社）

災害地質(3)　10:40-12:00

79. 都市域の地盤地質と災害リスク:あなたの家の地下には何がありますか？
〇竹下 徹（東北大学）
80. 県管理道路における点群データを活用した潜在的斜面災害リスクの評価と路線特性の考察
〇佐藤 京音・山本 奈穂・新谷 広紀・伊藤 雅之・田中 貴人・小野山 裕治・室井 翔太（国際航業）
81. 谷底平野に面する斜面における崩壊土砂量の推定事例
〇草野 亙・長谷川 和弘・長谷川 豊・松永 京子（村尾技建）
82. 音響地質学とは何か？
〇殿上 義久（音響地質研究所）
83. 十勝岳噴火災害の概要およびその後の対策
〇中田 光治（中央テクノ）・倉橋 稔幸（寒地土木研究所）
84. 箱根峠の自然災害伝承碑と古文書・地質踏査から読み解く北伊豆地震時の土砂災害
〇稲垣 秀輝（環境地質）

測量・計測　13:15-15:00

85. 複数手法で抽出した 3 次元き裂ネットワークに基づく岩石透水性評価と真三軸透水試験結果との比較
〇佐藤 稔（電力中央研究所）・朝比奈 大輔（産業技術総合研究所）
86. UAV-SfM/MVS を用いた高時間分解能 3 次元計測による火山山麓河川の地形変化解析
〇中牟田 新士・太田 岳洋（山口大学）
87. 数値標高モデルに基づく傾斜変換点・地形面の自動抽出方法
〇加藤 翔太・西金 佑一郎（鉄道総合技術研究所）
88. 航空レーザ測量での標高差分解析における差分発生要因の整理と精度向上の検討
〇小谷 健太・喜 里美・原 弘（JR 東日本コンサルタンツ）・清水 啓太・竹村 禎修（東日本旅客鉄道）・葩島 秀行（中日本航空）
89. ウェブ地図を用いた土石流の発生危険度評価手法
〇長谷川 淳・西金 佑一郎（鉄道総合技術研究所）
90. 鉄道を対象とした土石流危険度評価方法の検討
〇喜 里美・原 弘・小谷 健太（JR 東日本コンサルタンツ）・小西 魁・山根 佑太（東日本旅客鉄道）・梶田 大陽・吉田 拓海・神田 一宏・大村 さつき（応用地質）
91. 測量法改正がもたらす担い手確保にむけた取組の推進
〇栗栖 悠貴・佐藤 壮紀・小島 脩平・倉田 憲（国土地理院）

【ポスターセッション】
コアタイム 第２日［11 月 11 日（水）］
①　9：30-10：30
②　10：40-11：40

特別セッション１「DX・生成 AI 時代の土砂災害予測：調査・解析技術の最前線」

P1［②］. SPring-8 の X 線 CT とレーザー元素分析による地すべり破砕帯のボーリングコアの構造及び組成解析
○窪田 安打・中川 渉・渡邊 陽介・上原 康裕・藤井 正博・西脇 隆文・遠藤 司（応用地質）・伊藤 裕文（理化学研究所）・上杉 健太朗（高輝度光科学研究センター）・竹下 徹（岩手大学）

P2［②］. UAV オルソ画像と DEM 差分解析を用いた斜面崩壊・落石分布の抽出：能登半島輪島市曽々木地区の事例
○村松 樹・大塚 智久・岩滝 明子・金内 亜紋（八千代エンジニヤリング）・鈴木 祐太・笹川 淑雅（平成測量）

P3［①］. 機械学習を用いた豪雨による斜面崩壊の予測と影響要因の分析
○王 純祥・遠藤 雄治・平野 吉彦（キタック）

P4［①］. デジタル地形画像解析による地表変位計測の現状と展望
○向山 栄（国際航業）

P5［②］. 衛星 SAR を用いた能登半島における地すべりの把握 ― 2023 年 5 月地震と 2024 年 1 月地震の変動箇所の関連性 ―
○杉本 惇・橋本 裕紀・小俣 雅志（パスコ）

特別セッション２「自然災害伝承碑の調査研究とアウトリーチ活動の展開」

P6［①］. 青森県における自然災害伝承碑
○村上 智昭（復建技術コンサルタント）

災害地質

P7［①］. 崩壊／非崩壊斜面周辺の微地形と土壌性状
○宮本 新平（中電技術コンサルタント）・太田 岳洋・辻 智大（山口大学）・竹田 拓己（パシフィックコンサルタンツ）・黒木 貴一（関西大学）・森川 寛之（中電技術コンサルタント）

P8［②］. R-INLA を用いた土砂災害発生可能性の空間統計分析
○高畑 綾・古林 敬顕（秋田大学）

P9［①］. 地震により発生した斜面崩壊地の地形的・地質的特徴
○細川 亮介・梶山 敦司・浅井 健一・矢島 良紀（土木研究所）

P10［②］. 土石流の事前現象把握のための礫鳴り振動実験
○阪木 誠悟・菊地 輝行（公立諏訪東京理科大学）・林 宏一（京都大学防災研究所）・佐々木 恭介（アンバーロジックス）

P11［①］. 地震で崩壊した柱状節理の発達した岩盤斜面の前駆的変形
○柴崎 達也・高田 香・家田 満留（国土防災技術）

P12［①］. 奈良ヶ谷川流域における流域条件の違いが降雨時水文応答に与える影響
○田栗 颯士（山口大学）・太田 岳洋（山口大学）

P13［②］. 河川水の電気伝導度と濁度を用いた流域の斜面災害危険度評価
○二階堂 智明（新潟大学大学院）・渡部 直喜（新潟大学 災害・復興科学研究所）

P14［②］. 落石発生時における斜面調査事例
○入谷 正人・中澤 司・矢部 優也（基礎地盤コンサルタンツ）

P15［①］. 樹脂固定標本を用いたすべり面認定プロセス可視化の試み
○樋口 莉央・菊地 朱音・山田 彬人・植田 律・清水 豊・山根 誠（応用地質）・田畑 論太郎・神山 嬢子・杉本 宏之（土木研究所）

P16［①］. 日田市小野地区斜面崩壊地におけるキャップロック構造と地下水水質の関係
○髙尾 太輝・太田 岳洋（山口大学）

P17［②］. 総合知による災害知識伝達を目的とした検索拡張型 LLM フレームワークの検討
○菊地 輝行・柳原 貴明（公立諏訪東京理科大学）・久田 智之（アナザーブレイン）

P18［①］. 空中電磁探査による 2 時期の比抵抗変化とボーリングデータの対比 ―鹿児島県垂水市深港川周辺の火砕流台地斜面における検討事例―
○金山 健太郎・奥村 稔（大日本ダイヤコンサルタント）

P19［①］. 地質・土質調査と i-Construction 技術の融合による豪雨性地すべりの発生機構解析：ベトナム・ラオカイ省ランヌー集落を対象として
○中牟田 新士・吉野 瑛師・橋本 将弥・髙尾 太輝・太田 岳洋（山口大学）・古木 宏和（日本工営）

P20［②］. 水底火砕岩の風化特性が斜面崩壊に及ぼす影響 ―新第三系栗蔵層を例として―
○安永 裕紀（京都大学大学院）・松澤 真（京都大学

防災研究所）

P21［②］. 破砕帯および変形バンドの発達に伴う黒雲母変質と粘土鉱物生成 — XRD・SEM-EDS に基づく構造 - 鉱物連関と弱層形成機構の検討 —
○加地 広美（応用地質）・竹下 徹（東北大学）

土木地質

P22［①］. 風化した火山岩類の分布域における削孔投入エネルギーからの地質境界推定
○金澤 安蓮・吉河 秀郎・青野 泰久（清水建設）

P23［①］. 新第三紀火山砕屑岩の風化を対象とした携帯型 XRF 分析計の適用性の検討
○持田 裕之・酒井 亨・三宮 真由子（電源開発）・杉山 直也（J-POWER 設計コンサルタント）・荒井 融（地圏科学研究所）

P24［①］. エコーチップによる緩み深度の評価事例
○杉山 直也・池田 正道（J-POWER 設計コンサルタント）・熊崎 直樹（電源開発）

P25［②］. 下北半島東通地域の泊層火山砕屑岩における風化と吸水膨張特性
溝口 一生（電力中央研究所）・中満 隆博（東北電力）・○飯田 高弘・飯塚 幸子・谷口 友規（セレス）

P26. 中止

P27［②］. ALOS-2 干渉 SAR 解析による広域斜面変動監視と電力施設維持管理への展開可能性
○宇佐見 星弥（北海道立総合研究機構）・小早川 博亮・田中 姿郎・平田 康人（電力中央研究所）

P28［②］. 3 次元地質・地盤システムとオープンデータを用いた御嵩町亜炭層分布のモデル化の試み
○山川 貴生・藤井 幸泰（名城大学）

P29［①］. 人造石構造物におけるまさ土の性質とたたきの強度発現について
○藤井 幸泰（名城大学）・浅野 侃哲（元名城大学大学院）・亀井 創太・猪子 陽太（元名城大学）

P30［②］. 宇宙線ミューオンイメージングによる河川堤防内部の可視化
○北川 暢子・森島 邦博（名古屋大学）・福元 豊（岡山大学）・安田 浩保（東京大学）

P31［①］. 切羽の割れ目の平滑度を定量評価する方法とシステムの開発
○戸邉 勇人（鹿島建設）

P32［①］. 物理探査法・高精度表面波探査法の検証
○林 久夫（ジオックスコンサルタント）・高木 俊男（元 復建調査設計）・原口 強（STORY）

測量・計測

P33［②］. 山間・傾斜地における微動アレイ探査の適用性の検討
○山村 充・長谷川 陽一（国土防災技術）・池田 達紀・北村 圭吾（九州大学）

P34［②］. CLAS 対応 RTK を用いた UAV 調査の適用方法
○石丸 元気・丹羽 廣海・石田 純平（フジタ）・宮本 翔・角 大樹（コア）

P35［②］. 孔内ラドン濃度計測のためのダブルパッカーの製作と堆積岩への適用
○濱田 藍（電力中央研究所）・窪寺 将（吉沢技研計測）・大山 隆弘・伊知地 猛（電力中央研究所）・宮川 公雄

P36. 中止

P37［①］. 防災カルテ点検に対する点群計測手法の適合性に関する検討
○川又 基人・岡﨑 健治・日外 勝仁（寒地土木研究所）

P38［②］. 透水特性の異なる岩石試料を用いた携帯型簡易透水試験装置の適用性評価
○朝比奈 大輔・後藤 宏樹（産業技術総合研究所）

地層処分

P39［①］. 中硬質堆積岩の間隙水評価のための圧縮抽水技術の適用性
○大山 隆弘・楠原 文武（電力中央研究所）

P40［②］. 深部流体の湧出経路と地質構造―八塩鉱泉地域の事例―
○楠原 文武・大山 隆弘（電力中央研究所）・清水 洋平（大日本ダイヤコンサルタント）

P41［①］. 日本沿岸部の地形・地質環境の類型化に向けた基礎的検討
○吉岡 真弓・井川 怜欧・木方 建造（産業技術総合研究所）

P42［②］. 静岡県由比漁港におけるボーリング調査
○田中 姿郎・楠原 文武（電力中央研究所）・木方 建造・塚本 斉（産業技術総合研究所）

P43［①］. 一軸圧縮強度の信頼性の検討 －X 線 CT 画像解析による試験箇所選定－
○木方 建造・中島 善人・井川 怜欧（産業技術総合研究所）・田中 姿郎・楠原 文武（電力中央研究所）

P44［②］. 経時的差分 X 線 CT 法による岩石コア中の開口亀裂のイメージング
○中島 善人・木方 建造・井川 怜欧（産業技術総合研究所）

P45［②］. 葉山層群破砕質泥岩を対象としたシリケート

泥水を用いた大深度ボーリング（孔長 720 m）掘削試験
○幡谷 竜太・濱田 崇臣（電力中央研究所）・國丸 貴紀・西尾 光（NUMO）

P46［②］. 各種変形特性下における CO_2 地中貯留サイトの地震時安定性比較
○堀川 滋雄・佐々木 猛（サンコーコンサルタント）・楠瀬 勤一郎（地球環境産業技術研究機構）・橋本 涼太（京都大学）

地形・地質一般

P47［①］. ドローン測量に基づく鵜ノ崎海岸巨大コンクリーションの分布解析と元素移動の定量
○片田 はるか（電力中央研究所）・岡村 太路・吉田 英一（名古屋大学）・隈 隆成（宮崎大学）

P48［①］. 衛星画像アーカイブを利用した過去の土砂移動現象の判読事例
○西川 大亮・柴山 卓史・小嶋 竜太郎（パスコ）

P49［①］. 三川合流部から淀川上流域におけるクラスター分析による地域地盤特性分類の試み
○井上 直人（ＧＲＩ財団）

P50. 中止

P51［①］. 花崗岩斜面の表層崩壊後 50 年間の土層の起源と物性変化
○若月 強（防災科学技術研究所）・西井 稜子（新潟大学）

P52［②］. 地すべり地における UAV を用いた 3D モデルの作成と今後の利活用の検討
○諸隈 暁俊・屋木 健司・池田 裕香（アジア航測）・岡崎 皓介（神奈川県厚木土木事務所）

P53［①］. ドローン写真測量による花崗岩露頭の割れ目分布の必要調査範囲評価
○平田 康人（電力中央研究所）

P54［①］. 断層が水文環境と水質へ及ぼす影響
○松本 虎之空・太田 岳洋（山口大学）

P55［②］. 地形情報を用いた谷底低地における軟弱地盤の抽出方法の検討
○西金 佑一郎・加藤 翔太（鉄道総合技術研究所）・本間 信一・福場 俊和（国際航業）

P56［①］. Ca 型スメクタイトのガラス粉末混合時の挙動
○高井 康宏（エネコム）

P57［②］. 第四紀テフラの U-Th-Pb 年代測定（その 12）：ジルコンの U-Th 法の年代標準試料としての On-Pm1
○伊藤 久敏（電力中央研究所）

社会貢献

P58［②］. 地球科学的現象の構造的理解のための「還帰モデル」の提案
○吉野 瑛師・太田 岳洋（山口大学）

P59［②］. 応用地質学に携わる技術者のキャリアパス
○太田 岳洋（山口大学）・金山 健太郎（大日本ダイヤコンサルタント）・清水 公二（ニュージェック）・応用地質学教育普及委員会

P60［②］. にいがた災害用井戸普及協議会の取組み
○坂東 和郎・金子 法泰・五十石 浩介（興和）

地下水

P61［①］. 新潟県における近年の地下水位状況
○坂東 和郎・五十石 浩介・藤野 丈志（興和）

P62［②］. 新潟県糸魚川市月不見の池における水位低下の要因
○中島 茉梨乃（新潟大学大学院）・渡部 直喜（新潟大学災害・復興科学研究所）

P63［①］. 機械学習を用いた井戸の水位低下要因の検討
○沖田 孝行・八木 笙太・原 伸匡・風見 健太郎・大嶋 篤（エイト日本技術開発）

P64［②］. ダムおよび周辺水系における酸素・水素安定同位体と水質に基づいた水の分類
○伊藤 由紀・田中 姿郎（電力中央研究所）

環境地質

P65［②］. 鉄道用バラストのボリュームを考慮した CO_2 固定能力の試算
○河村 祥一・原田 浩伸（鉄道総合技術研究所）

P66［①］. 建設発生土中に含まれる黄鉄鉱中のヒ素濃度と溶出試験結果との関係
○山崎 秀策・田本 修一・日外 勝仁（寒地土木研究所）

P67［①］. 重金属等を含有する掘削土に対する環境安全性確保のための対策工法の提案（その 4）
○成瀬 美樹・門間 聖子・山口 尚宏・佐藤 敏雄・西本 彩香（応用地質）

P68［①］.「ふるさとの石」の解説による応用地質学のアウトリーチ　その 2
○船山 淳（パシフィックコンサルタンツ）　・佐伯 佳美（ダイエーコンサルタンツ）・大谷 晃（八千代エンジニヤリング）・清﨑 淳子（クロスエンジニアリング）・宇佐美 光宣（大日本ダイヤコンサルタント）・堀 信雄（日さく）・宇田川 義夫（千葉県環境財団）・菅野 萌子（早稲田大学）・大野 博之（地質工学社）

P69［②］. 地下水（仕込み水）・地質と日本酒の味覚の関連性の考察（新潟県の地酒など）
〇舩山 淳（パシフィックコンサルタンツ）

緊急セッション「令和 8 年熊本地震と近年の自然災害」
緊急企画のため，講演要旨を掲載しておりません

P70［①］. R8 年熊本地震　現地で見た地表地震断層の分布と特徴（速報）
〇令和 8 年熊本地震災害調査団九州支部 WG
P71［①］. 令和 8 年熊本地震災害に対する九州応用地質学会の対応
〇九州応用地質学会 R8 熊本地震災害 WG
P72［②］. 令和 7 年 8 月豪雨によって熊本県中部で発生した斜面崩壊の特徴
〇佐伯 拓馬（熊本大学）・星住 英夫（産業技術総合研究所）・宮縁育夫（熊本大学）
P73［②］. 2026 年熊本地震の地表変状 ー宇城市小川町の砂川沿いを中心にー
〇亀高 正男・小寺 凌・新谷 俊一・川島 庸亮（大日本ダイヤコンサルタント）
P74［①］. 令和 8 年熊本地震における光学衛星画像，航空写真及び航空レーザー測量を用いて抽出した地表変状の詳細
〇渋谷 典幸・渡邉 和輝・小俣 雅志（パスコ）
P75［①］. 衛星 SAR 画像を用いた令和 8 年熊本地震に伴う地表変位
〇橋本 裕紀・杉本 惇・渡邉 和輝・渋谷 典幸・小俣 雅志（パスコ）
P76［②］. 令和 8 年熊本地震前後の航空レーザ計測データを用いた AI 技術等による斜面変動箇所の抽出
〇室井 翔太・小野 尚哉・小野山 裕治・田中 貴人・向山 栄・高橋 弘太（国際航業）
P77［②］. 航空レーザ計測データを用いた 2026 年熊本地震に伴う地表変動の把握
〇吉田 崇博・藤田 浩二・細江 佳・川邊 多一郎・藤原 銀河・佐々木 寿（アジア航測）
P78［①］. 令和 8 年熊本地震で生じた地盤変状～液状化と干渉 SAR で捉えた地盤変状に着目して～
〇宇佐見 星弥・小島 隆宏・小安 浩理・石丸 聡（北海道立総合研究機構）
P79［②］. 令和 6 年能登半島地震後の黒島漁港の変化
〇松本 なゆた・細矢 卓志（中央開発）